

北海道大学の教育改革・学生支援に関する取組

(平成29年度版)



本冊子の発行にあたって

本冊子は、北海道大学における全学的な教育改革や学生支援についての取り組みの要諦を紹介するものです。このような取り組みは、本学の教育改革室や高等教育推進機構において一歩ずつ進められているもので、各学部及び大学院での種々の取り組みと並行して、特に本学の創基150年の節目となる2026年に向けた「北海道大学近未来戦略150」に即して企画立案され、実行されつつあるものです。

本学の「近未来戦略150」では、特に「専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見、並びに異文化理解能力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材の育成」を教育の目標として掲げています。そしてまた、この目標は、平成28年度から開始された第3期中期目標・中期計画期間における教育に関する目標の柱ともなっており、本冊子に取り上げられた様々な取り組みは、とりわけ全学教育や総合教育のプロセスにおいて積極的に試みられています。そして、これらの試みは、単に一つの授業科目ばかりでなく、本学全体における様々なレベルの教育にも応用可能なものとなるよう発展させるべきものでもあると言えます。これらの試みが各学部及び大学院における専門教育にも活用され、本学全体の教育の革新が進み、真に「世界の課題解決に貢献する人材」の育成に資することができるよう、教職員や関係の皆様方のご理解とご協力が得られることを祈念するものです。

北海道大学理事・副学長
高等教育推進機構長、教育改革室長
長谷川 晃

教育内容及び教育の成果等に関する中期目標

専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見並びに異文化理解力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する。

教育に関する中期計画①

グローバルに活躍する力を養うため、第2期中期目標期間に開設した全学横断的な教育プログラムである「新渡戸カレッジ(学士課程)」及び「新渡戸スクール(大学院課程)」をさらに充実させた教育内容で実施し、両プログラムにおいて合わせて延べ1,000名以上の修了者を輩出する。また、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールにおいて、学生の学修過程を可視化できる修学ポートフォリオを開発し、各学部・研究科等においても順次導入する。

取組1 NITOBЕ教育システム

国際社会の発展に寄与する人材を育成するため、学士課程・大学院課程を通した先駆的な教育方法「NITOBЕ教育システム」を構築し、全学横断型の特別教育プログラムとして、「新渡戸カレッジ」(平成25年度開設)及び「新渡戸スクール」(平成27年度開設)を実施しています。

なお、平成29年度入校生から「新渡戸カレッジ」は、リーダーシップの重要性と国際社会の理解を促すことを目的とする「基礎プログラム(1年間)」とグローバル社会でリーダーとして活躍できる能力の養成を目的とする「オーナーズプログラム(2年目から卒業まで)」の2段階のプログラムに改編します。

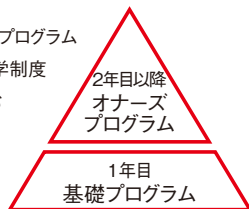
また、平成29年度から「新渡戸スクール」は、従前のプログラムを主に修士課程学生を対象とする「基礎プログラム」として位置づけるとともに、博士課程を対象とする「上級プログラム」を新設しています。

NITOBЕ教育システム

- (1) グローバル人材に不可欠な高度の英語力と高いコンピテンシー(人間力、生きる力)の育成
- (2) アクティブ・ラーニングを駆使した主体的に学ぶ力の確立
- (3) 修学ポートフォリオを活用した学びと指導の可視化及び効率化
- (4) 同窓会ネットワークを活用した教育・キャリア支援

新渡戸カレッジの特長

- グローバル・リーダーを育成する2段階の教育プログラム
- 自律的な個人の確立と専門能力を高める留学制度
- リーダーシップに必要なスキルとマインドを育む独自のカリキュラム
- 国際経験の豊かな同窓生からなるフェローによるキャリア支援



特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」

基礎プログラムの必修科目

グローバル基礎科目

- ・ リーダーシップに関する気づき、また海外留学の意義、目的及び実態について学問の世界、現代社会の課題、キャリアデザインの視点から学び、自らの考えを深める

留学支援英語

- ・ 英語を母語とする講師による少人数クラスによる実践英語
- ・ 英語によるコミュニケーション能力の向上
- ・ 留学時に必要なアカデミックスキルの習得

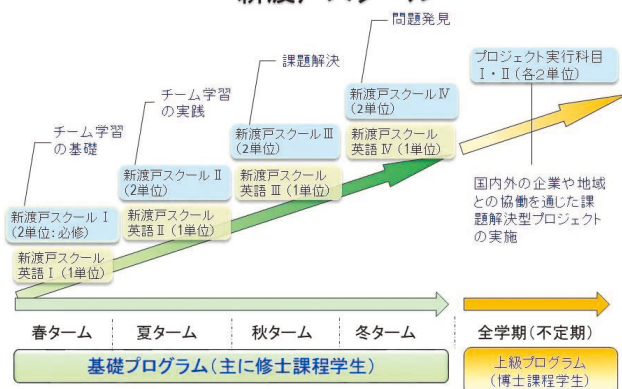


新渡戸学(フェローゼミ)

- ・ フェローの主導により現地視察の中から課題を発見しグループワークにより課題解決方法を探る演習



新渡戸スクール



本学HP > 新渡戸カレッジ

<http://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>

本学HP > 新渡戸スクール

<http://nitobe-school.academic.hokudai.ac.jp/>

教育に関する中期計画②

学生の主体的な学びを促進させるため、教育環境の整備を進め、アクティブ・ラーニング及び情報コミュニケーション技術等を活用した授業科目の開講数を増加させる。また、社会的ニーズに対応し、全学部を横断する新たな共通科目群を開設するとともに、ビジネス・スキル、専門職倫理等の授業科目を開設する。

取組2 「全学教育科目」に係る各種取組

主に1年次生を対象とした「全学教育科目」(教養科目及び基礎科目)は、全部局の協力体制の下、充実したカリキュラムで実施しています。第2期中期目標期間においては、次の取組等を実施しました。

取組	取組内容
共通カリキュラムの編成	総合入試の導入に伴い、文系・理系ごとの共通カリキュラムを編成。
少人数授業の充実	英語演習に「上級:留学支援英語」、一般教育演習(20名程度のクラス)に「多文化交流科目」、「グローバル・キャリア・デザイン」、「フィールド型演習」を新設。
双方向型授業の充実	双方向遠隔授業、アクティブ・ラーニングのための教室をそれぞれ4室整備し、テレビ会議システムによる遠隔授業や複数のプロジェクター・スクリーンを使用したチーム学習に活用。
英語による授業の拡大	ネイティブ教員による「留学支援英語」のほか「英語資格試験対策講座」及び「キャンパス英語」を新設。理系基礎科目の物理学、生物学及び数学に、英語による授業を新設。

また、平成28年度から、教養科目の一部について、クォーター制に対応した授業科目を配置しています。



高等教育推進機構のアクティブ・ラーニング教室

取組3 北海道地区国立大学教養教育連携実施事業

北海道地区国立大学では、単位互換協定に基づき、双方向遠隔授業を主体とした教養教育の連携実施事業を推進しています。平成27年度から本格実施として、各大学から100科目以上の授業科目が提供されています。双方向遠隔授業を効果的に実施するにあたり、FD研修会の実施やTA等授業支援スタッフの育成を行うとともに、デジタル教材を活用した反転授業やアクティブ・ラーニングの手法を導入した新たな授業方法の普及に取り組んでいます。本事業により、各大学から特色ある授業が提供されることで、学生は多様な授業を履修することが可能となっています。

本学HP > 国立大学教養教育コンソーシアム北海道

<https://www.nucla-hokkaido.jp/>



双方向遠隔授業

取組4 オープンエデュケーションセンター

■e-ラーニング部門

学内の教育改善やオープン教材開発の支援、新たな教育手法の開発及び導入を進めています。高等教育推進機構S講義棟にはアクティブ・ラーニングに対応した講義収録室を設置しています。また、全学の教育支援としてELMSの管理運用を担当しています。本センターのOER (Open Educational Resources)を活用した教育改善への取組は、新しい学習の可能性・学力向上に役立つ様々なコンテンツ・サービス、ならびにソリューションに対する功績に与えられる日本e-Learning大賞の「オープンエデュケーション特別部門賞」を受賞しました。

本学HP > 大学案内 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > オープンエデュケーションセンター

<http://www.open-ed.hokudai.ac.jp/>



高等教育推進機構の講義収録室

■科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)

科学技術の専門家と一般市民との橋渡しを担う科学技術コミュニケーターを養成しています。活動の一つであるサイエンス・カフェ札幌は、グッドデザイン賞を受賞しました。

本学HP > 大学案内 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > 科学技術コミュニケーション教育研究部門

<http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/>

教育に関する中期計画③

第2期中期目標期間に導入したナンバリング制度、国際通用性のあるきめ細かなGPA制度等を活用し、教育課程のさらなる体系化と学修成果の検証体制の構築を推進する。また、全学部・研究科等において、積極的にクォーター制の導入を推進し、平成28年度までに全学部を導入するとともに、平成31年度までに、全学部・研究科等においてアセスメント・ポリシー(学修成果の評価方針)を策定する。

取組5 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

平成25年度に、本学の「基本理念と長期目標」に基づく、学士課程及び大学院課程全体の「ディプロマ・ポリシー (DP)」・「カリキュラム・ポリシー (CP)」を策定しました。平成26年度に、大学全体のDP・CPを踏まえた、各学部・研究科等のDP・CPを策定しました。

本学HP > 大学案内 > 北海道大学の教育における3つの方針

<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/information/threehoushin/>

取組6 授業科目ナンバリング制度

平成25年度から、順次性のある体系的な教育課程の構築を目的として、授業内容・レベル等に応じて授業科目に特定のナンバーを付し、教育課程表やシラバス等に記載する次のナンバリング制度の導入を開始し、平成27年度には本学の全授業科目でナンバリングを実施しました。

ナンバリングコード [ABC_DE 1234]

ABC:開講部局等 DE:学科等 1:レベル 2:中分類(学問分野) 3:小分類(学問分野) 4:言語

本学HP > 大学案内 > 総長室・評価室・広報室等 > 教育改革室 > 順次性のある体系的な教育課程の構築に向けて～ナンバリング実施の手引き

<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/H2903numbering.pdf>

取組7 新GPA制度, 学習成果の質に基づく成績評価, 厳格な卒業認定基準

平成27年度学士課程入学から、国際通用性の向上ときめ細かな成績評価を実現するため、次の新GPA制度を導入しています。

- 1 成績を海外大学と同様に「A・B・C・D・F」に+, -を付した11段階により評価。
- 2 合格基準のGP値を1.0から2.0に、最上位のGPを4.0から4.3に引き上げ。
- 3 成績評価は、「学修成果の質」に基づいて成績のグレードを判断し、GPを付与。

また、10学部において、この新GPA制度に基づく「卒業時の通算GPA2.0以上」を卒業認定基準として導入しています。

新GPA制度 [本学HP](#) > [広報・公開](#) > [北海道大学規則集](#) > [第3編 学務](#) > [北海道大学におけるGPA制度の取扱いに関する要項](#)
http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG00000819.html

卒業認定基準 [本学HP](#) > [広報・公開](#) > [法令等に基づく公表事項](#) > [学校教育法施行規則第172条の2に規定する情報](#) > [学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること](#) > [1. 学部](#)
<http://www.hokudai.ac.jp/pr/gakusyu-gakubu2.pdf>

取組8 カリキュラムマップ

授業科目のナンバリング制度、国際通用性のあるきめ細かなGPA制度等を活用し、教育課程のさらなる体系化と学修成果の検証体制構築を推進する方策のひとつとして、平成29年度に各学部、研究科等においてカリキュラムマップを作成することを決定しました。

取組9 学位論文評価基準

学位論文に係る評価の客観性及び厳格性を担保するため、研究科・学院ごとに「学位論文に係る評価基準」を策定しました。

評価基準では、学位論文の審査において、どのような能力を測るのか、どのような点が評価されるのか、また、論文の要件・構成等について、課程ごとに定められています。

[本学HP](#) > [広報・公開](#) > [法令等に基づく公表事項](#) > [学校教育法施行規則第172条の2に規定する情報](#) > [学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること](#)
<http://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/172-2-1-6.html>

取組10 教学IR活動

本学のIR活動の更なる推進を図るため、高等教育推進機構において行われていた教学データの集積及び分析並びに検証機能については、平成29年7月1付けで総合IR室に統合されました。

取組11 授業アンケート

■授業評価アンケート

平成28年度から、全ての学部において授業評価アンケートを実施しています。

なお、全学教育科目に係るアンケートは、質問に対する5段階評価形式と自由記述式であり、学生による授業評価の結果を教員にフィードバックすることで、授業の質の向上を目指しています。平成25年度からは、特定の授業においてコアカリキュラム(教養科目)の理念が実現されているかについても調査しており、平成28年度からは、全ての授業において調査することとしました。また、平成26年度の授業科目について実施したアンケートからは、学生からの意見や教員の改善策等を報告書にとりまとめて、ホームページ(学内限定)に公表することとしました。

本アンケートは、全学教育科目を担当する教員は、少なくとも1年間に1科目について実施することとしています。

[本学HP](#) > [大学案内](#) > [運営組織・その他](#) > [高等教育推進機構](#) > [授業アンケート](#)
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/enquete/enquete.htm>

取組12 国際化に対応した柔軟な学事暦

教育改革室では平成26年4月、各学部がクォーター科目を配置するなど柔軟な学事暦とすることで、学生がより海外留学しやすい環境を整備し、国際的流動性の向上を図ることを主眼とした「国際化の推進に向けた学事暦の見直しについて」をまとめました。

平成28年度には、①全ての学年をクォーター制とする、②留学しやすい特定の学年・学期のみクォーター制とするなど、全ての学部に加え10大学院において、それぞれの実情に応じた「柔軟な学事暦」を導入しました。

教育に関する中期計画④

国際社会の発展に寄与する人材を育成するため、ジョイント・ディグリー・プログラムをはじめとする海外大学との共同教育プログラムを新たに10件以上開設するなど、国際通用性のある大学院教育を実施する。

取組13 コチュテル・プログラム、ダブル・ディグリー・プログラム、ジョイント・ディグリー・プログラム

グローバル教育を推進するための方策の一つとして、平成28年度までに、7大学院でダブル・ディグリー・プログラムを、3大学院でコチュテル・プログラムを導入しました。今後はジョイント・ディグリー・プログラム制度の導入を予定しています。

■コチュテル・プログラム

外国の大学と連携し、博士論文作成にかかる研究指導を両大学が共同で行うもの。学位記は本学から授与され、コチュテル・プログラムの修了が付記される。

■ダブル・ディグリー・プログラム

外国の大学と連携し、同じ学位レベルの教育プログラムを開設し、単位互換等を通じ、プログラム参加学生がそれぞれの大学の卒業・修了要件を満たした際に、各大学がそれぞれ学位を授与するもの。

■ジョイント・ディグリー・プログラム

外国の連携大学と共同で一つの教育課程を構築するもの。学生は本学と連携大学の両方に在籍し、プログラムの修了時には、各大学連名の学位記が授与される。

取組14 大学院共通授業科目

既存の研究科等の垣根を越えた総合的・学際的な教育の発展と、大学院教育における専攻分野に関する分野の基礎的素養の涵養を目的として、全学の大学院生が受講可能な共通授業科目を開設しています。平成28年度からは、Hokkaidoサマー・インスティテュートの科目も追加され、約280の授業科目から、これまで以上に幅広い分野の学修が可能となりました。

教育の実施体制等に関する目標

教育の質を向上させるため、教育力・教育支援力を高度化する体制を整備する。

教育の実施体制等に関する中期計画

教職員等の教育力・教育支援力を高めるため、平成27年度に開設した「高等教育研修センター」において、ニーズに対応したファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)等の研修プログラムを一元的に開発し、実施する。また、英語による授業を拡充するため、英語を母語とする講師によるFDプログラムを拡充する。

取組15 ティーチング・フェロー制度

大学院教育の実質化を進め、学士課程教育の充実を図ることを目的として、ティーチング・アシスタント(TA)制度に加え新しい制度であるティーチング・フェロー(TF)制度を平成27年度から導入しています。TF制度は、本学の大学院教育の一環として、TFとして採用した博士課程学生に、教員と分担しながら学士課程の授業を担う機会を与えることで、ティーチングにかかわる技能を高め、経験の蓄積を促し、将来の大学教員のみならず幅広い分野において指導的な役割を果たす人材の養成を図ります。

取組16 高等教育研修センター

平成27年4月1日高等教育推進機構に設置しました。

本センターには、3つの部門(ファカルティ・ディベロップメント部門、スタッフ・ディベロップメント部門、ラーニングサポート部門)が置かれ、FD・SD等、教育・研究及び業務全般の高度化及び国際化に必要な資質の向上を目的とした研修等を実施しています。また、授業に関する教員からの相談、カリキュラムやポリシー等に関する部局単位での相談も受け付けています。

(各部門の主な取り組み)

FD部門	・教育ワークショップ: 新任教員を対象とするアクティブ・ラーニングの手法やシラバスの書き方に関する研修 ・国際化対応FD研修: 英語で授業を行う場合の注意事項、発音等を学ぶための研修 ※平成28年度には、英語を母語とする講師による研修・ワークショップを中心に新たな枠組みの研修・ワークショップを14回主催 ・TF研修会: 新任TFを対象とするTFの心構えや大学教育の基礎的理解、学習指導の基本を習得するための研修 ・TA研修会: 新任TAを対象とするTAの心構えや役割の理解を深めるための研修
SD部門	・実用的な英会話運用能力の向上を目指す国際系研修 ・学生指導・支援等業務を学ぶ学生・教務系研修 ・教員参加の下でキャリアアップ等に関する議論を行う職員セミナー
LS部門	ラーニングサポート室(LSO): 北海道大学の総合入試制度に関わる進路・修学支援、学習支援、データ分析

高等教育研修センター [本学HP](#) > [大学案内](#) > [運営組織・その他](#) > [高等教育推進機構](#) > [高等教育研修センター](#)
<https://ctl.high.hokudai.ac.jp/>

ラーニングサポート室 [本学HP](#) > [大学案内](#) > [運営組織・その他](#) > [高等教育推進機構](#) > [ラーニングサポート室](#)
<http://asc.high.hokudai.ac.jp/>

学生への支援に関する目標

総合的な学生支援体制の下、多様な背景を持つ学生への支援を充実させる。

学生への支援に関する中期計画①

学生が安心・安全で充実したキャンパスライフを送ることができるようにするため、学生支援組織間の連携を強化し、進路・履修相談、経済的支援、就職支援、キャリア支援等の取組を実施する。また、奨学金及び授業料免除については、既存制度の検証を行い、よりきめ細かな支援制度に改善する。

学生への支援に関する中期計画②

全ての学生にとって教育の機会が公平に提供されるキャンパスを目指し、特別修学支援室の体制整備など、障がいのある学生を支援する体制を拡充させるとともに、教職員・学生を対象とした継続的な研修を実施する。また、平成29年度までにバリアフリー整備計画を策定し、ユニバーサルデザインに配慮したキャンパスに整備する。

取組17 学生相談体制

学生相談体制としては、大きく3つあります。「保健センター」、「学生相談室」そして「ラーニングサポート室」です。また、学生による学生のための何でも相談窓口として、「ピアサポート室」があります。

1 保健センター（内線5348）

保健センターでは、専門医・カウンセラーによる健康相談と応急的な診療を行っています。身体的・精神的な心配事がある学生のケアも行っています。

2 学生相談室（月～金曜10:15-17:00 高等教育推進機構N110 内線7463）

学生相談室では、「何でも相談」の窓口として、臨床心理士が学生の相談に応じています。学生生活全般の様々な悩みや相談事に応じ、問題を一人で抱え込まないように対応しています。また、教職員からの相談にも応じ、気になる学生についての相談にも対応しています。

3 ラーニングサポート室（月～金曜8:30-17:00 高等教育推進機構E210, E211, 内線7526）

ラーニングサポート室では、博士号を持つ専門スタッフが、総合入試入学者の進路選択・履修計画に関する相談や、日々の学習内容に関する相談に対応しています。また、進路選択のための資料作成や学習に関するセミナーの開催など、幅広い学修支援を行っています。

4 ピアサポート室（月～金曜12:00-16:30 情報教育館2階）

学生同士での気軽な相談場所として、ピアサポート室を設置しています。同室では学部2年生以上の学生が、ピアサポーターとして学生の立場で相談に応じ、大学生活における先輩への相談場所として活用されています。

取組18 特別修学支援室

本学における障害を有する学生に対し、平等な教育の機会を提供するため、障害を有する学生が学修及び研究を行う上で必要な学びの環境調整を関係部局と連携して行う機関として、特別修学支援室を設置しています。

具体的な支援内容の相談に応じる場合は、当該学生（以下、「利用学生」とします。）との面談に加え、必要に応じて所属部局の教職員等が同席の上、支援計画実施に向けた面談を行っています。



相談から支援までの流れ

利用学生各教職員
等からの相談

支援コーディネーター
による初回面談

特別修学支援室
相談員による面談

関係教職員
との協議

学びの環境
の調整

また、平成28年4月に制定された「国立大学法人北海道大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応要領」に基づき、教職員に対し、障害者差別解消の推進を目的とした啓発活動を行っています。

本学HP > 学生生活 > キャンパスライフサポート > 特別修学支援室

<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/support/tokubetsu-shien.html>

取組19 カリヤセンターの各種取組 手厚い就職活動支援

— 学生の積極的な利用を推進しています —

就職相談	学生指導経験豊富な教員とキャリアコンサルタント(国家資格)・CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)資格を有する職員が担当。内容は就職全般、自己分析、エントリーシート・履歴書作成、模擬面接、内定取扱いなど。「予約制キャリア相談」(函館キャンパスや東京オフィスの遠隔地にも対応)と「フリー枠相談」を実施しています。
就職情報提供	求人票や企業案内パンフレットのほか、就活書籍(貸出可)、新聞、国家公務員(総合職・一般職)試験の過去問、企業・団体から提供されたOB・OG名簿、卒業生から提供された「就職サポーター名簿」や「就職活動レポート」などを閲覧可能です。
就職ガイダンス・セミナー開催	就職活動に関する基礎的なガイダンスや、民間企業等志望者向け、公務員志望者向け、教員志望者向け、留学生向けなどの対象を絞ったイベントのほか、実践中心・少人数の「就活ミニ講座」など、あわせて年間100日以上開催。最大のイベントである「企業研究セミナー」には、740以上の企業・団体と延べ26,000名以上の学生・留学生が参加しています。
インターンシップ(国内)	「全学インターンシップ」(学部生には全学教育科目の一環として単位認定)受入企業・団体の公募・開拓、参加学生との連絡調整のほか、中央省庁や地方自治体向けの手続きなどを行っています。



キャリアセンター(クラーク会館1階)



就職ガイダンス



企業研究セミナー

[本学HP](#) > [学生生活](#) > [キャリアセンター](#)
<http://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

入学選抜に関する中期目標

広く世界に優秀な人材を求め、本学の教育を受けるにふさわしい学力・能力を備えた人材を多様な選抜制度により受け入れる。

入学選抜に関する中期計画

第2期中期目標期間に導入した、入学後に所属する学部を決める「総合入試」制度を検証する。また、ボーダレスなグローバル社会をリードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜するため、平成30年度入試から国際バカロレア等を用いた「国際総合入試」を開始する。さらに、大学院課程を中心に、テレビ会議システム、海外オフィスを活用した渡日前入試を拡大するなど、国際化に対応した入学選抜を実施する。

取組20 総合入試・総合教育制度

「入学後に自分の専門や所属する学部を決める」総合入試・総合教育制度の実施・検証

学生アンケートの結果から、総合入試制度に満足している学生の増加、希望どおり学部・学科等移行した学生の増加等がみられるとともに、卒業年次アンケートにおいても、所属学部に対して総合的に満足している学生の割合が高いことから、総合入試・総合教育制度が順調に機能していることを確認しています。また、志願者・入学者のうち、道外出身者の割合も増えてきており、全国から多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れることができています。総合入試・総合教育制度については、今後さらに検証していきます。

取組21 国際総合入試制度

新たな入学選抜制度「国際総合入試」を導入(平成30年度入試)

「北海道大学近未来戦略150」に掲げる「国際化に対応した入試制度改革」、及び文部科学省による大学入試における国際バカロレア資格の活用促進を踏まえ、新たな入学選抜として、「国際総合入試」を平成30年度入試(平成29年度実施)から導入します。本入試では、グローバル人材の育成のため、グローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜し、入学後は、学生にメンター(教員)を配置し、きめ細かな支援を行うとともに、新渡戸カレッジの活用により、国や地域、学問分野をこえて活躍できる学生を育成します。

本入試の特徴として、将来国際社会で活躍するための力を教育プログラムによって養成している「国際バカロレア」や、米国留学を目指す多くの者が受験する大学進学適性試験(SAT又はACT)を活用します。

平成30年度北海道大学国際総合入試の学生募集要項は、平成29年5月に公表しました。

(参考)「平成30年度北海道大学国際総合入試学生募集要項の公表について」

[本学HP](#) > [入学案内](#) > [国際総合入試](#)

<http://www.hokudai.ac.jp/admission/exam/post-1.html>

[平成30年度北海道大学国際総合入試学生募集要項](#)

https://e-apply.jp/e/hokudai-iq-jpn/pdf/iq_jpn.pdf

取組22 入学選抜改革の検討

いわゆる「学力の3要素」を多面的・総合的に評価しうる新たな選抜方法の導入など、本学の入学選抜改革について検討を進めています。こうした検討の進捗状況について、学校関係者のみならず、一般に広く周知するため、平成29年5月に「高校・大学・社会をつなぐ大学入試を目指して」と題し、「北海道大学入試改革フォーラム2017」を開催しました。

■学力の3要素

(1) 十分な知識・技能、(2) それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力等の能力、そして(3) これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

北海道大学の教育改革・学生支援に関する取組

数字は、対応する取組番号を示しています

高等学校		学部				大学院 (修士課程・専門職学位課程)		大学院(博士(後期)課程)			卒業生・修了生
		1年	2年	3年 (3～5年)	4年 (6年)	1年	2年 (2～3年)	1年	2年 (2～3年)	3年 (4年)	
5 教育における3つの方針 ・入学受け入れ方針 ・教育課程編成・実施の方針 ・学位授与の方針 22 入学選抜改革の検討	入学多様な 学生選抜	厳格な学位授与方針による学位授与				入学多様な 学生選抜	厳格な学位授与方針による学位授与		入学多様な 学生選抜	厳格な学位授与方針による学位授与	
		順次性のある体系的な教育課程の編成					順次性のある体系的な教育課程の編成			順次性のある体系的な教育課程の編成	
入 試	進学相談会	20 一般入試(総合・学部別)				一般入試		一般入試			
	オープン キャンパス	AO・帰国子女入試 私費外国人留学生入試 21 国際総合入試				社会人入試 外国人 留学生入試		社会人入試 外国人 留学生入試			
教 育		1 新渡戸カレッジ				1 新渡戸スクール					
		2 全学教育科目,3教養教育連携実施事業									
		2,3 少人数授業,双方向授業				14 少人数授業,双方向授業					
		2 英語による授業				14 英語による授業					
		4 オープンエデュケーションセンター				4 オープンエデュケーションセンター					
		7 新GPA制度,学修成果の質に基づく成績評価, 厳格な卒業認定基準				9 学位論文評価基準					
		6 ナンバリング,8カリキュラムマップ				6 ナンバリング,8 カリキュラムマップ					
		10,11 教学IR活動(授業アンケート等)				10,11 教学IR活動(授業アンケート等)				10教学IR活動 (卒業生アンケート等)	
		12 国際化に対応した柔軟な学事暦				12 国際化に対応した柔軟な学事暦					
						13 ジョイントディグリープログラム,ダブルディグリープログラム					
					13 コチュエルプログラム						
					14 大学院共通授業科目						
					15 ティーチング・フェロー制度						
	16 高等教育研修センター(FD・SD研修)				16 高等教育研修センター(FD・SD研修)						
	20 総合教 育制度										
学生支援		17 保健センター,学生相談室, ラーニングサポート室,ピアサポート室				17 保健センター,学生相談室, ラーニングサポート室,ピアサポート室					
		18 特別就学支援室				18 特別就学支援室					
		授業料免除制度,奨学金制度,顕彰制度				授業料免除制度,奨学金制度,顕彰制度					
		課外活動支援,学生ボランティア活動相談室,学生寮				課外活動支援,学生ボランティア活動相談室,学生寮					
就職支援		19 就職相談				19 就職相談		19 就職相談			
		19 就職情報提供				19 就職情報提供		19 就職情報提供			
		19 就職ガイダンス・セミナー				19 就職ガイダンス・セミナー					
		19 インターンシップ				19 インターンシップ					

※研究職志望の博士(後期)課程大学院生向けの支援は人材育成本部で実施

※研究職志望の博士(後期)課程大学院生向けの支援は人材育成本部で実施

各取組の事務担当

- 取組1…教育推進課 NITOBÉ教育システム推進事務室
新渡戸カレッジオフィス(内線5414)・新渡戸スクールオフィス(内線5596)
- 取組2…教育推進課 全学教育・総合教育担当(内線5344)
- 取組3…教育推進課 北海道地区国立大学連携教育機構事務室(内線8084)
- 取組4, 10, 11, 16…学務企画課 総務担当(教育支援関係)(内線5567)
- 取組5, 6, 7, 8, 12…学務企画課 教育企画担当(内線5249)
- 取組9, 13, 14, 15…学務企画課 大学院担当(内線5253)
- 取組17, 18…学生支援課 学生支援企画担当(内線7460)・保健担当(内線5345), 教育推進課 全学教育・総合教育担当(内線5083)
- 取組19…キャリア支援課(内線2987・3262・3657)
- 取組20, 21, 22…入試課 試験実施担当(内線7481), 教育推進課 全学教育・総合教育担当(内線5083)